

大項目	中項目	令和2年度 評価の概要と今後の課題
教育理念・教育目的	教育理念・教育目的の設定及び達成	<p>2022年カリキュラム改正にむけて理念、目標の見直し、修正を行なっている。しかし、医師会立という設置主体から地域に根差した看護師の養成をする教育機関であり、地域の医療現場を近くに感じながら学べる教育活動を行っていく必要がある。今後の課題としては、社会の動向、地域のニーズを踏まえ教育内容の充実を図り、2022年度のカリキュラム改正に向けて、3つのポリシーを策定し、教育内容を具体的に検討していく。</p> <p>学校の教育理念・目的・目標は学生便覧、シラバス、実習要項、学校案内に記載し入学時だけでなく学生には周知するように努めている。</p>
教育目標	教育目標の設定及び達成	<p>教育目標は理念・目標と一貫性があり実現可能なものである。</p> <p>カリキュラム改正に伴い、教員間においての情報交換をおこない、共有できている。自己評価も昨年より高得点を示している。</p>
教育課程経営	教育活動経営者の活動	<p>教育課程・理念・目的・目標は学生に周知されている。</p> <p>教育課程の評価、見直しはシラバス作成時に毎年見直している。2022年カリキュラム改正では地域包括ケアシステムに関する知識と実習での体験が関連付けられるよう、在宅看護論を中心に地域踏査、地域生活支援科目の充実を検討中である。更に、人間を多角的に捉え、倫理観、人間性豊かな人材育成のための科目構成となるように講師の選定も行っている。</p>
	教育課程編成の考え方とその具体的な構成	<p>単位履修の方法と修得方法、評価方法は学生便覧に明示されており、入学時のオリエンテーションで学生に周知している。</p> <p>単位認定の基準は筆記試験、レポート等で評価し、それぞれ評価段階、評価基準を設けて行っている。合格基準は60/100点としている。</p> <p>他大学等で履修してきた科目に関しては、担当講師とシラバス内容の合致性を確認し認定している。</p>
	科目・単元構成	<p>学生便覧に倫理規定を掲載し、教育に関する公平性を規定している。また学生からの声を「意見箱」を設置し第三者に知らせる方法を設けている。また、総合保険制度に加入しており、学生を守るシステムを採用している。</p>
	教育計画	<p>単位履修の方法と修得方法、評価方法は学生便覧に明示されており、入学時のオリエンテーションで学生に周知している。</p> <p>単位認定の基準は筆記試験、レポート等で評価し、それぞれ評価段階、評価基準を設けて行っている。合格基準は60/100点としている。</p> <p>他大学等で履修してきた科目に関しては、担当講師とシラバス内容の合致性を確認し認定している。</p>
	教育評価の体系	<p>学生便覧に倫理規定を掲載し、教育に関する公平性を規定している。また学生からの声を「意見箱」を設置し第三者に知らせる方法を設けている。また、総合保険制度に加入しており、学生を守るシステムを採用している。</p>
	教員の教育・研究活動の充実	<p>実習指導や学生指導等に時間を要し、教員の教育・研究活動の時間は十分にとれていないが、事務処理などは事務職員の全面的協力を得、できるだけ準備の時間を確保するようにしている。また、業務の効率化をはかるため、学校管理システムを導入し活用している。研修会には自己申請し、研修費および諸経費が3万円まで補助がある。必要時研修会参加後は、教務会議で報告し情報を共有している。今後も、計画的に研修に参加し、自己研鑽に努める。</p>
	臨地実習	<p>学生による実習評価を行っており、教員・臨床指導者に評価内容を還元し、次年度の臨地実習に活かしている。</p> <p>実習開始前・後に実習指導者会議を行い、前年度の振り返りや実習要綱を基に実習の説明を行い、実習方法についての共有を行っている。学生のインシデント・アクシデントを分析し、安全対策に活かしている。</p>
教授・学習・評価過程	授業内容の妥当性	<p>授業内容やテキストの検討を行い、シラバスの内容の修正を行っている。</p> <p>看護技術演習は、教員の協力体制、学内演習担当の非常勤教員で対応できている。教員の定数は満たしているが、実習中でも教員が演習や講義に関わるよう実習に専従できる実習指導教員の増員した。カリキュラム改正に向けて、カリキュラムツリーを策定し授業科目の妥当性を検討中である。</p>
	授業の展開過程	<p>講義に関しては、講義後のリフレクションシートやアンケートによる授業評価教員個々に実施し、授業の振り返りを行っている。客観的な評価が得られるように、統一した内容で全教科の授業評価ができる体制が必要。アンケートの作成は出来ている。</p>
	目標達成の評価とフィードバック	<p>臨地実習評価は各領域の実習グループ毎に実施している。実習内容、実習指導内容の見直しに活用し、次年度の実習に活かしている。</p>
	学習への動機づけと支援	<p>単位認定の評価基準に関しては、学生便覧・実習要綱に記載されており、学生にも周知している。</p>
	授業・実習評価	<p>シラバス・学生便覧・実習要綱は冊子にし、学生が主体的に学習できるよう提示している。</p>

大項目	中項目	令和2年度 評価の概要と今後の課題
経営・管理過程	設置者の意志・指針	<p>昨年よりも高得点となっている。</p> <p>設置主体が桑名医師会であり、桑名・桑員地区を中心として卒業生も就業し地域住民の健康の保持増進と生活向上のために貢献できる看護の実践者を育成しているということを、教職員は認識し学生指導を行っている。</p>
	組織体制	<p>校務文書・業務基準で職務・業務の役割等を明示している。学校運営会議、教職員会議を定期的に開催し適切に実施している。</p> <p>教務を補佐する事務職員を配置し、教務と事務部門の組織を整備している。適宜業務分担の見直しを行っている。</p> <p>個人情報保護に関しては個人情報保護規定において遵守されている。</p>
	財政基盤	<p>図書・視聴覚教材に関しては、年間予算内の分配率も多く持ち、必要なものを検討し購入している。</p> <p>ICT教育にむけて、タブレットの購入、学内のW i - F i 環境の整備を行った。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い学内から学外への配信授業も増えた。配信システムにZoomを採用し、一斉メールが可能となるに設備機器を整備した。</p>
	施設設備の整備	<p>また、各教室に空気清浄機を設置するなど、学生の健康管理にも努めた。</p> <p>災害時行動マニュアルは、毎年見直し学生便覧への掲載、教職員に配布している。9月に火災・防災訓練を行っている。今後は防災教育への取り組みが課題となっている。</p>
経営・管理過程	学生生活の支援	<p>桑名医師会奨学金貸与施設奨学金、県修学資金制度、学生支援機構など紹介・手続きを行っている。担任との個別面談・指導・国家試験対策、進路相談を行い、多角的に支援している。</p> <p>心の相談室を毎月開設し、学生の状況に応じて定例の開催とは別に対応している。カウンセラーは病院・学校での実務者であり、学生の対応で困ったケースへの助言を教員も受けている。</p> <p>入学予定者について、入試合格後、入学するまでに期間があるため、看護を学ぶ前に必要な基礎知識の学力アップを目的として、本を1冊購入し学習に取り組みせ、学力の確認を行っている。</p>
	養成所に関する情報提供	<p>学生の成績状況は年2回学生に配付している。必要に応じて電話にて支援協力依頼や保護者との面接を実施している。</p> <p>広報活動はホームページで情報公開・発信しているオープンキャンパスは2回/年実施している。高等学校への訪問、進路ガイダンスへの参加を実施している。</p>
	自己評価・自己点検体制	<p>学校運営全般に関して明確な構想はなく、今後は、中・長期的ビジョンに基づき、年度当初に学校目標、教育目標を立て実施していく必要がある。</p> <p>自己点検・自己評価については、教職員各自の意見を基に、副校長・教務主任・実習調整者で作成し教務会議に卸している。今後は教員相互の評価とし、学校運営会議で話し合い、外部評価者との意見交換を行う必要がある。現在は行っていない結果のホームページ上の公表も検討している。</p>
入学	学生募集活動	<p>教育理念・教育目標を踏まえた学生募集を実施している。受験者数は大学設置の増加に伴い減少している。指定校推薦、社会人入学制度を導入し2年目である。導入して初年度の卒業生が令和4年3月に卒業を迎えるため、その時点で入学後の成績推移から選抜方法の妥当性について評価・検証して行きたい。</p>
卒業・就業・進学	卒業・就業・進学	<p>卒業時の到達目標は、卒業生の特性として明示されているものはなく、1人1人の到達状況の分析は出来ていない。</p> <p>卒業生の就業・進学状況については、データ蓄積している。就職率は、100%であり理念・目標との整合性はとれている。</p> <p>就職先との情報交換については、桑名医師会の関連施設と一部の関連外施設から、卒業生の近況についての写真やメッセージを頂いている。他の施設については、看護師募集の来校時に卒業生の様子を聞いている。</p>
地域交流・国際交流	地域交流	<p>今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の為、毎年参加している地域の防災訓練も中止となり参加できていない。老年看護学での地域高齢者との交流も高齢者の安全を考え中止とした。コロナ感染症の収束が確認出来た再開したいと考えている。</p>
	国際交流	
研究	研究活動	<p>研究活動を継続して行える環境にはなっていない。個人研鑽として大学、大学院で行った研究を成果として継続できていない。各自が所属している学会の研修や学術集会への参加もコロナの感染拡大に伴いW e b開催が殆どであった。</p>

	教育理念 教育目的	教育目標	教育課程 經營	教育課程 經營	教授・学習 評価過程	經營 管理過程	入学	卒業・就業 進学	地域交流 国際交流	研究
令和元年度	2.6	2.6	2.5	2.8	2.6	2.4	2.7	2.2	2.3	1.6
令和2年度	2.6	2.9	2.7	2.8	2.6	2.7	2.6	2.6	2.3	1.9

自己評価・自己点検

